となみ野 散居村 SANKYOSON

展望スポットマップ

となみ野田園空間博物館推進協議会
http://www.sankyo-son.jp

砺波市／砺波市商工農林部農地林務課［〒939-1398 砺波市栄町7番3号 ／☎0763-33-1431］
となみ散居村ミュージアム［〒939-1363 砺波市太郎丸80番地 ／☎0763-34-7180］
南砺市／南砺市ブランド戦略部農政課［〒939-1692 南砺市荒木1550番地 ／☎0763-23-2016］
富山県／富山県農林水産部農村振興課［〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号 ／☎076-444-3381］
富山県砺波農林振興センター企画振興課［〒939-1386 砺波市幸町1番7号 ／☎0763-32-8130］

展望スポット

散居村が一望できる
スポットをご紹介します

1 向山健民公園高台（むかいやま）

砺波市東保字向山12-1
近隣施設 砺波市B&G海洋ｾﾝﾀｰ TEL:0763-37-1580

庄川の河岸段丘から散居村が一望できます。

2 散居村展望台

砺波市五谷字八布施22-3
近隣施設 夢の平コスモス荘 TEL:0763-37-2323

砺波平野独自の散居村の風景はもちろん、立山連峰のほか、はるか日本海まで一望できます。眼下に広がる風景は、人と大自然がつくりあげた自然のパノラマです。

3 散居村展望広場

砺波市庄川町隠尾
近隣施設 夢の平コスモス荘 TEL:0763-37-2323

砺波平野の散居村を一望できる、新しい展望施設です。身体障害者専用駐車場及び大型バス駐車場を備えており、バリアフリーになっています。

4 鉢伏山（はちぶせ）

砺波市庄川町隠尾
近隣施設 夢の平コスモス荘 TEL:0763-37-2323

鉢伏山の山頂(標高510m)へは、専用駐車場から自然や山歩きを楽しみながら登ります(約10分)。砺波平野はもちろん富山湾や立山連峰まで一望できます。スキー場営業期間はスキーを履いてリフトで山頂へ登ります。

5 三条山（さんじょう）

砺波市庄川町庄

三条山(標高334.5m)は、庄川嵐山の北端にあり、舟戸橋から山の中腹を進んで左側の上が三条山です。三条山の中腹から砺波平野を望めば、広い水田を縫うように、北へ向かう幾条もの流路跡が見えます。開田、開町の先人の労を偲ぶ景観です。

6 閑乗寺公園（かんじょうじ）

南砺市閑乗寺 TEL: 0763-82-2565

標高約300mの高台にある閑乗寺公園は、砺波平野の散居村を一望することができます。右手に庄川、左手には医王山、遠くには富山湾という素晴らしい景色が望める県指定公園です。

7 八乙女山（やおとめ）

南砺市八乙女山

八乙女山　751.8m

閑乗寺公園展望台から八乙女林道を登ります。山頂付近の林道からの景色は絶景です。

8 縄ケ池展望駐車場

南砺市蓑谷

縄ケ池は、標高830mの山中にあって、東西273m、南北545m、周囲1,946mの三面が峰に囲まれた自然湖です。四季を通して清く澄んだ水を満々とたたえています。

9 つくばね森林公園展望台

南砺市林道字原山12

つくばね山一帯に広がる森林公園で、ブナ、ナラ、シラカバ、スギなどの天然樹林が広がり、標高約1,000mのつくばね山からは、砺波平野に広がる散居村や、遠くは日本海や能登半島までも眺望できます。

10 国道304号松村謙三展望台

南砺市大鋸屋

国道の谷側に、突然見晴らしの良い場所が開けます。山麓付近から平野にかけての眺望が楽しめます。

11 医王山付近

南砺市才川七
近隣施設 IOX-AROSAスキー場 TEL:0763-55-1326

医王山は白山山系の北端に位置し、富山県の西南端、石川県との県境にそびえ、標高939.1mの奥医王を主峰とする山の総称です。薬草が多いことから医王の名が付けられ、貴重な植物や昆虫、鳥獣が生育しています。

12 安居寺公園第1展望台（あんごじ）

近隣施設の住所 南砺市安居4941

一帯は、安居寺公園として整備され、多くのサクラを見ることができます。展望台からは、砺波平野が一望でき、特に、第一の展望台からは、サクラの木の向こうに広がる散居村の風景が楽しめます。

13 蟹谷小学校裏手（かんだ）

小矢部市平桜字岡山80 TEL:0766-69-8353

小矢部市の南側丘陵に位置する蟹谷小学校からは、市全体を見渡すことができ、晴れた日には遠く富山湾も望むことができます。校舎と時計台は東京大学教養学部、正面口のポーチは東京大学図書館、正門は学習院女子短大の門、他にも体育館は一橋大学兼松講堂をモデルにしています。

14 クロスランドおやべ

小矢部市鷲島10 TEL: 0766-68-0932

クロスランドおやべにはランドマークとして、また、シンボルとしてそびえ立つクロスランドタワーがあり、最高部で118mの高さを誇り、地上100mの展望室からは、散居村に点在するメルヘン建築物や壮大な北アルプスが一望できます。

15 稲葉山牧野（いなばやま）

小矢部市田川165 TEL: 0766-67-5175

小矢部市の北部に位置する稲葉山(標高346.9m)の山頂から中腹にひろがる公共育成牧場で、散居村のすばらしい風景を見渡せます。牧場内に、やぎ・うさぎ・モルモット・リスなどの小動物を飼育し、動物とふれあうことができます。

見どころスポット

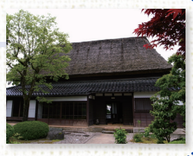
となみ野の美しい
名所をご紹介します

1 となみ散居村ミュージアム［砺波市太郎丸80］

カイニョと呼ばれる屋敷林に囲まれた農家が点在する散居村、これが砺波平野を代表する景観です。となみ散居村ミュージアムは、この景観を保全することや、この地域に伝わる伝統文化を全国に発信し、地域の活性化を創出するための、となみ野田園空間博物館の拠点施設です。

2 かいにょ苑［砺波市豊町1丁目2-10］

砺波市指定文化財である「旧金岡家住宅」の愛称です。砺波平野の散居村地帯の典型的な大型農家で、砺波地方で一般的に瓦が使用されるようになった明治末期以前の茅葺き農家の姿を残す明治4年の建物です。材料・工法ともに上質で、江戸時代末期のもっとも進んだ技術による民家建築といえます。



3 旧中嶋家住宅［砺波市花園町4-72］

中嶋家は代々江波村の肝煎を勤めていた家柄で、明治初期の持高は約80石でした。18世紀中頃の建築と推定されます。昭和51年3月から12月にかけて現在地(チューリップ公園内)に移築され、市指定文化財として保存されています。周囲に屋敷林を植え、散居農家の景観を復元しています。

4 砺波郷土資料館［砺波市花園町1-78］

明治期の擬洋風建築の代表的な建物として砺波市の文化財に指定されています。館内には、郷土の地理や歴史、民俗などが展示され、「砺波の風土」をわかりやすく紹介しています。

5 入道家住宅（にゅうどうけ）［砺波市太田170］

県指定文化財の大規模民家です。嘉永6年に8代忠兵衛が建築したものです。大規模ヒロマ型農家の代表例で、保存状況が良好であり、砺波平野の散居村に多く見られるアズマダチ建築の典型例として貴重です。
（※個人住宅のため見学できません。周りからは見られます。）

6 増山城跡（ますやま）［砺波市増山一の丸3324］

国指定史跡の増山城跡は、砺波市東北部の山中にあり15世紀から17世紀初めまで、250年続いた山城です。南北朝時代から戦国時代の動乱で、神保氏など城主が数度も入れ替わった後、江戸時代初めの一国一城令で、廃城となりました。城跡は、全体で約40haありますが、一の丸、二の丸、三の丸など、往時の状態が良好な形で保存されています。

7 千光寺（せんこうじ）［砺波市芹谷1111］

千光寺の創建は703年で、県内屈指の古刹です。スギ並木の奥に広い境内があり、砺波市の文化財に指定されている観音堂、御幸門などがあり、インドの僧法道上人が開祖と伝えられ、現在は高野山真言宗となっています。

8 二万石用水親水空間（にまんごくようすいしんすいくうかん）

近隣施設の住所［砺波市庄川町青島3552］

砺波平野の中心部を潤す用水で、砺波扇状地の扇頂部にある庄川合口堰堤(昭和16年9月完成)に源を発し、砺波市、南砺市、小矢部市等に分水している用水です。ここに水に親しむ水路や環境を整備し、公園的機能をもたせたものです。

9 庄川大仏（光照寺内）［砺波市庄川町金屋1870］

光照寺境内に鎮座する庄川大仏は、県内三大仏の一つで、その特徴は、供養と慰霊のために、その体内には約10万人の遺骨が塗りこめられているといいます。高さは10.2mで、一見青銅製に見えますが名工竹内源造作の鉄筋コンクリート製の像です。

10 井波城址［南砺市松島東島188］

市指定史跡の井波城址は、三方を土塁が囲み、北東側に深い谷が残り断崖となっており、戦国時代の典型的な山城です。ここは、明徳元年(1390年)に「瑞泉寺」が創設されたところです。「瑞泉寺」は文明13年(1481年)に福光城の石黒氏を破り、越中の一向一揆の拠点となったので、周囲に土塁や外堀を築いて防御したのです。

11 井波別院 瑞泉寺（すいせんじ）［南砺市井波3050］

明徳元年(1390)本願寺第5代綽如上人によって開かれました。この寺は、北陸の浄土真宗信仰の中心として多くの信者を集め、大きな勢力を持っていましたが、16世紀、佐々成政の軍勢に攻められ、焼き払われています。兵火を逃れて城端北部に移った後、再び井波へ戻り、現在の場所に再建されています。山門は県指定文化財です。

12 散居村散策の道［南砺市井波］

南砺市井波市街地西部の田園地帯を巡る全長約4.3kmの散策路です。緑の散策路ゾーン、散居村散策ゾーン、歴史・文化ゾーンの3つのゾーンに分かれています。あずまだち高瀬のそばを流れる勧行寺川では、初夏には蛍がみられ、付近の高瀬遺跡や南砺市埋蔵文化財センター、高瀬神社では、歴史と文化に触れ合うことができます。

13 高瀬神社［南砺市高瀬291］

高瀬神社は、延喜式内社として砺波地方を中心に、古くから人々に崇敬されています。日本海沿岸と関連が深い大己貴命（おおなむちのみこと）大国主命（おおくにぬしのみこと）が祭神で、能登や伏木の氣多神社も同じ祭神です。

14 あずまだち高瀬［南砺市北市128-4］

南砺市の北東部に位置し、砺波の伝統的家屋であるアズマダチを後世に残し伝えるために、移築・再現したもので、農家の食生活や農機具の展示等、地域の歴史や文化を体験できます。

15 いのくち椿館［南砺市宮後188］

南砺市の中央に位置し、椿の研究と保存を目的とする「椿と屋敷林によるコミュニティガーデン」として開館しました。隣接する「原種椿園」では、国内外を問わず、椿属原種を90種以上を栽培する学術的にも評価の高い国内唯一の椿原種見本園です。

16 城端別院 善徳寺［南砺市城端西上405］

文明年間（1470年頃）、加賀国砂子坂に蓮如上人を開基として建立され、永禄2年(1559)、当地に移った真宗大谷派の名刹です。山門、本堂、太鼓楼、鐘楼の4つが県文化財に指定されています。

17 桜ヶ池

近隣施設の住所
南砺市立野原東1514

春は桜、夏は菖蒲、秋は紅葉と四季折々に美しい、周囲約3kmの人造湖。桜の名所としても有名で、春には数千本の桜が咲き誇ります。すぐそばには、コテージや温泉など多彩な施設を集めた「桜ヶ池クアガーデン」や「自遊の森」をはじめ、遊具広場やスケートパークやクライミングセンターなど自然を満喫できる施設が点在しています。

18 監的壕（かんてきごう）

近隣施設の住所
南砺市立野原東1767

監的壕（かんてきごう）とは、実弾射撃訓練において、着弾効果を観測するための施設をいいます。この「監的壕」は、昭和10年代の遺構であり、演習場として当時を偲ぶ唯一の遺産で、市指定文化財です。

19 法林寺歴史街道

近隣施設の住所
南砺市法林寺1

棟方志功が法林寺の光徳寺に疎開していた頃、好んで訪れた川(豆黒川　この川を棟方志功は瞞着(だまし)川と名付けた)の河童伝説を聞き、それをもとに、「瞞着川」と題する散文を作り、その文章を入れた版画作品全39作のうち13枚を選び裏彩色を施しました。瞞着川の堤防沿いにその13作品を配置し、散歩道として整備しています。

20 安居大堤ビオトープ

近隣施設の住所
南砺市安居4941

大堤には、ホクリクサンショウウオをはじめとした、いろいろな動植物が生息し、地域住民に親しまれている池です。

21 安居寺（あんごじ）［南砺市安居4941］

インドから渡来した僧、善無畏三蔵が開いた真言宗の古刹で1300年の歴史を伝えています。本尊の木造聖観音立像は、平安時代初期の作とみられる国指定の重要文化財です。観音堂は県の指定、仁王門は市の指定を受けています。

22 冨田家住宅［南砺市安居］

安居寺への参道入口の左側にある家で、国登録有形文化財になっています。入母屋造り・平入り・木造2階建ての大型住宅で屋根は総桟瓦葺き（そうさんかわらぶき）となっており、大正13年から昭和初期に建築されています。
（※個人住宅のため見学できません。周りからは見られます。）

23 巌浄閣（がんじょうかく）［南砺市苗島433］

富山県内唯一の明治期の学校建築として現存する施設です。建設されたのは明治36年、旧県立農学校の本館でした。平成9年に国の重要文化財の指定を受けています。

となみ野散居村

散居村

水田の中に家が点在する集落の形態を「散居村」といいます。砺波平野の散居村は緑豊かな屋敷林に囲まれた家々が、平野一面に碁石を散りばめたように点在しています。

緑に覆われた小島が大海原に浮かぶ姿にも似て大変美しく、日本の農村の原風景のひとつといわれています。

散居村の成り立ち

砺波平野は主に庄川によって作られた扇状地です。扇状地は、地表の土が薄く、表土の下はすぐに砂礫になっています。未開拓地を開くにあたっては、まず、微高地の表土の厚いところを選んで住居を定め、その周囲を開拓していきました。庄川の水量が非常に豊富であったため、どこでも容易に水を引くことができました。そのため、家々は散らばり、それぞれの周囲を耕作するようになりました。

このような散居村の原型ができたのは、今から約500年前の中世後期から近世初頭にかけてです。その後、集村化することなく現在までこの形が続きました。それは、この形が農業経営の上で有利だったからです。なぜなら、自分の耕作する田が自分の家の周りにあれば、田に肥料を運び出したり、刈って干しあがった稲を取り込んだりする農作業が容易にでき、日常の水の管理にも都合がよかったからです。

屋敷林（カイニョ）

農家を取り巻く屋敷林のことを「カイニョ」といいます。家屋を風雪から守り、また、夏の暑い日差しを避けるために原生林の一部を残したのが起源と考えられています。屋敷林には実のなる木も含まれていますが、スギやケヤキなどの大きな樹木も多く、かつては毎日の燃料と家を建て替えるときの建築材料として使用されました。

「高(たか)(土地)を売ってもカイニョは売るな」ともいわれ、先祖代々大切に守り育てられました。

伝統的家屋

砺波平野の農家には、大きな三角の妻面に太い梁と束、貫が格子状に組まれ、その間が白壁となっている切妻屋根の「アズマダチ」と呼ばれる家屋があります。農家は本来茅葺き屋根であったものが、明治中期以降瓦葺き屋根になりました。アズマダチの歴史は金沢の武家屋敷にみられた切妻型妻入りが原型といわれています。

そのほかに平入りの「マエナガレ」と呼ばれる家屋とともに、砺波平野の美しい散居景観の形成を担っています。